

長池公園内で見られる

桜あれこれ

野生種
(自生)



ヤマザクラ (山桜) *Cerasus jamasakura*

4月上旬から中旬にかけて開花。葉が展開してから咲くことと、花の色や開花時期などに個体変異が大きいのが特徴です。コナラやクヌギにまじって園内の雑木林に多数自生しており、かなりの大木もあります。葉柄や花柄の一部などに毛のあるウスゲヤマザクラと呼ばれる個体も時折見られます。



マメザクラ (豆桜) *Cerasus incisa*

早咲き性の低木野生種で富士山周辺や箱根などに多く、別名フジザクラとも呼ばれています。3月中旬から開花し、葉が出る前に1～2個ずつ花を下垂して咲かせます。葉は小さく両面に毛が生えていて、縁は規則正しい重鋸歯となるのが特徴で、タマノホシザクラやヤブザクラを産みだした片親の桜でもあります。多摩丘陵にもわずかに自生していますが減少の一途を辿っており、長池公園では種子繁殖により若木の保護育成に取り組んでいます。観察ゾーン、ながいけの道沿いや雑木林トレイルで見ることができます。



ヤママメザクラ：別名ミノブザクラ (山豆桜) *Cerasus* × *furuseana*

ヤマザクラとマメザクラの雑種と推定される桜が、特別保全ゾーンや外周緑地にわずかですが見られます。ヤマザクラに似て高木となりますが、葉が展開してから開花し、花はやや小形で下垂するなど、両親の中間的な性質を備えています。



タマノホシザクラ（多摩の星桜）
Cerasus tamaclivorum

3月下旬から4月上旬に開花する早咲きの桜。ガクが赤く尖り、花を後ろから見ると星形をしています。2004年に大原隆明氏（現富山県立植物園）他により発表された新しい種で、エドヒガンとマメザクラの遺伝子を併せ持つ雑種起源の桜と考えられています。町田市から多摩市にかけての多摩丘陵、大栗川南岸沿いに分布し、約150株が生育しています、絶滅に瀕した貴重な桜で、長池公園には自生していませんが、保護育成のため、南大沢産の株が育成されています。発表当初の和名はホシザクラでしたが、園芸品種に同名の桜が存在していたため、タマノホシザクラと改名提案されました。自然館周囲や水辺観察デッキ前の植栽地で見ることができます。



ヤブザクラ（藪桜） *Cerasus hisauchiana*

マメザクラに似てやや大形の花を付ける小高木状の桜で、3月下旬から4月上旬にかけてマメザクラに続いて咲き始めます。タマノホシザクラと同じ、マメザクラとエドヒガンの遺伝子を持つ雑種起源の桜で、多摩丘陵から相武台地にかけて分布しています。小泉源一や久内清孝といった植物研究者により1910年代に高尾山や横浜市から報告されていながらほとんど認識されず、現在、絶滅に瀕している不遇の桜とも言えます。長池公園にはでは自生品は無く、保護育成を目的に南大沢産の個体を栽培しています。中庭や自然館周囲、水辺観察デッキ前などで見ることができます。



ヨウコウ（陽光） *Cerasus* 'Youkou'

オオシマザクラとエドヒガンを交配して作られたアマギヨシノを片親に、愛媛県の桜栽培家である高岡正明氏がカンヒザクラを交配して作り出した栽培品種です。名は「天地に恵みを与える太陽」という意味で、世界平和の願いを込めて命名されたそうです。花はカンヒザクラの形質を受け継いでいることから紅紫色に染まる一方、アマギヨシノの影響で大きな花径となります。開花は3月下旬から4月上旬に開花します。外周緑地沿いの歩道に列植されています。



ソメイヨシノ（染井吉野） *Cerasus* × *yedoensis* 'Somei-yoshino'

エドヒガンとオオシマザクラの自然雑種で生まれた桜です。多数の花が葉の展開前に咲き乱れることから、多くの花見の名所にこのソメイヨシノが植栽されていることは周知のとおりですが、この桜の登場は意外に新しく、江戸時代後期、染井（現在の葛飾区）の植木屋が見出したとされ、それ以降に広まってきました。3月下旬～4月上旬にかけて開花します。それ以前は、ヤマザクラが花見の対象であったようです。北エントランスゾーンの芝生広場周辺に植栽されています。



オオシマザクラ（大島桜） *Cerasus speciosa*

ヤマザクラと同様、葉の展開と同時に開花し、白色で大型、しかも良い香りの花を咲かせるのが特徴です。本来の自生は関東南部の沿岸域から伊豆七島にかけてですが、現在では内陸部にも広がり、また植栽もされます。大きな葉は桜餅を包むのに利用されます。長池公園では、南エントランスゾーンだけに植栽されており、やまざと広場を中心に植栽されています。4月上旬～中旬にかけて開花します。



ゴテンバザクラ（御殿場桜） *Cerasus incisa* × ?

御殿場農園の渡辺健二氏により発見された桜です。葉は重鋸歯が目立ち、マメザクラとほかの桜との雑種と推定されています。花弁は淡紅色で、小さい木でも花を多数つける特徴があります。4月中旬から下旬にかけて開花します。自然館会議室脇や中庭にそれぞれ植栽されています。



カスミザクラ（霞桜）

Cerasus leveilleana

ヤマザクラによく似た桜で、葉の展開とともに開花します。市内では山地を中心に自生していますが、しばしばヤマザクラと区別されずに公園や街路に植栽されています。花や葉には多少とも毛があり、葉の鋸歯はやや鋭い重鋸歯となるのが特徴。開花は遅く、4月中旬から下旬にかけて咲きます。駐車場をはじめ、園内各所に植栽されています。



オオヤマザクラ（大山桜）

Cerasus sargentii

エゾヤマザクラとも呼ばれ、高標高の山地を中心に分布しています。八王子市内には自生せず、公園などに植栽されています。花の色は紅色が鮮やかで冬芽には光沢や粘りがあり、葉は無毛で基部は心形といった特徴があります。駐車場や自然館周囲に植栽され、開花はやや遅く4月中旬からとなります。



ウコン（鬱金）

Cerasus serrulata 'Grandiflora'

東京の荒川堤で栽培されていた八重咲き品種で、花色が独特な淡黄緑色のため広く普及し、欧米にも渡っています。ショウガ科のウコンの根茎を使って染めた色に花色が似ていることからこの名がつけられたと言います。4月中旬頃に開花し、散る前には中心部が紅色に変わります。芝生広場東南部に1本植栽品があります。



コウカ（紅華）

Cerasus serrulata 'Kouka'

北海道の浅利政俊氏によって作出された八重咲きの栽培品種。成葉の基部が円形で葉裏が白色を帯びることからオオヤマザクラとサトザクラの雑種と考えられています。花径は大きく5センチほどの大きさとなり、花弁は淡紅紫色で先端や外面は紅紫色を帯びています。4月中～下旬頃に開花します。姿池東南側の上部の芝生に1本植栽されています。